

コニカミノルタグループ 2013年(平成25年)3月期 第3四半期決算説明会 主な質問と回答

日 時: 2013年1月31日(木)18:30~19:30
場 所: 野村コンファレンスプラザ日本橋 6F 大ホール

<ご留意事項>

「主な質問と回答」は、決算説明会に出席になれなかった方々の便宜のため、参考として掲載しています。説明会でお話したこと全てをそのまま書き起こしたのではなく、当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承ください。

また、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご了承ください。

■ 情報機器事業関連

Q: 第3四半期ではA3モノクロMFPが中国主体に販売が減少したとの事ですが、その背景と今後の見通しについて教えてください。

A: 調査会社によると、中国市場は当第2四半期までは持続的な成長が続いておりましたが、第3四半期では、急速に需要が冷え込んでいるものと認識しています。

当社の販売においては、大口顧客向けの直販ルートでは堅調な販売を維持している一方で、中小顧客を主体とするディーラー向けの販売が落ち込んでいることが主要因と考えています。

第4四半期以降は、中国経済の回復に伴って、販売は緩やかに復調していくものと考えています。

Q: 競合他社からは新製品発売や、欧州での販売強化などの話が聞かれますが、競争環境に変化は起きていないのでしょうか。

A: 当社のA3カラーMFP新製品は、競合他社に先行して、当第2四半期より発売を開始しております。

欧州における販売も好調であり、競合による販売面での影響は無いものと認識しています。

Q: 直近では為替が円安傾向となっていますが、円安メリットを活かして価格や拡販費用に充当する競合もある様ですが、対抗策としてはどの様に考えているのでしょうか。

A: 売上の7割以上が海外向けとなる情報機器事業にとって円安が収益に追い風となるのは事実です。

その一部を使って、当社はOPS(オプティマイズド・プリント・サービス)やプロダクションプリントなど成長領域での販売強化に向けた投資を今後も継続していく考えです。

また、長期化傾向となっている商談の早期クロージングに向けた投資を強化したいと考えています。

但し、事務機器自体の販売価格に円安メリットを全て転嫁するつもりはなく、出来るだけ利益に歩留らせたいと考えています。

■ 産業用材料・機器事業関連

- Q: 液晶偏光板用TACフィルムの下期販売数量は、前回の第2四半期決算発表時は、上期比で△10%との事でしたが、第3四半期実績を受けて、見通しに変化はあったのでしょうか。
- A: 前回見通しでは慎重に前提を置いたという事もあり、最新の下期販売数量見通しは、上期比で△2%～△3%程度に留まるものと考えています。
- Q: 韓国や台湾の偏光板メーカーでは、来年度よりTACフィルム代替品の採用が一部始まるようですが、これらに対抗する製品の販売計画はあるのでしょうか。また、対抗製品の投入に際しては、新たな設備投資などが発生するのでしょうか。
- A: TACフィルム代替品の一部採用については認識しており、現在、我々の特徴を最大限に生かした新製品等の開発を進めています。尚、当製品は既存設備での生産が可能であり、工場新設など大規模な設備投資は必要ありません。

以上